

ハウスみかんの着花確保に有効な断根時期						
<p>[要約]</p> <p>早期加温型ハウスみかん栽培では、<u>夏季せん定後40日～50日ごろの断根処理が、着花確保に最も有効である。</u></p>						
長崎県果樹試験場	専門	栽培	対象	温州みかん	分類	指導
平成4年度長崎県果樹試験場業務報告						

[背景・ねらい]

早期加温型ハウスみかん栽培では、着花の不安定が問題となっている。このため、20～30%断根の処理時期と着花量の関係について検討し、着花確保に有効な断根処理時期を明らかにした。

[成果の内容・特徴]

夏季せん定と断根処理時期

処理年	夏季せん定期	断根処理		加温開始時期
		時期	夏季せん定後日数	
1990	6/25	無処理	-	12/1
		7/21	26	
		8/6	42	
1991	7/17	無処理	-	11/20
		7/31	14	
		8/28	42	
1992	7/3	無処理	-	11/15
		7/30	27	
		8/24	51	

- ① 8月断根区（夏季せん定後42日～51日後処理）が、全節数当たり着花率、発芽節数当たり着花率が高く、母枝当たり着花数が多い。
- ② 7月断根区は 9月断根区にくらべ発芽率、全節数当たり着花率、母枝当たり着花数は少ないが、発芽節数当たり着花率は高い。
- ③ 夏季せん定後14日後の断根処理区は、無処理区より発芽率、着花率が低く、母枝当たり着果数が少ない。
- ④ 加温直前の枝内澱粉含量は 8月断根区が最も高く、次いで 7月断根区であり、無処理区は低い。

[成果の活用面・留意点]

断根処理は樹勢の弱い樹では避け、樹勢が強く着花が不安定な樹に限って実施する。

[具体的データ]

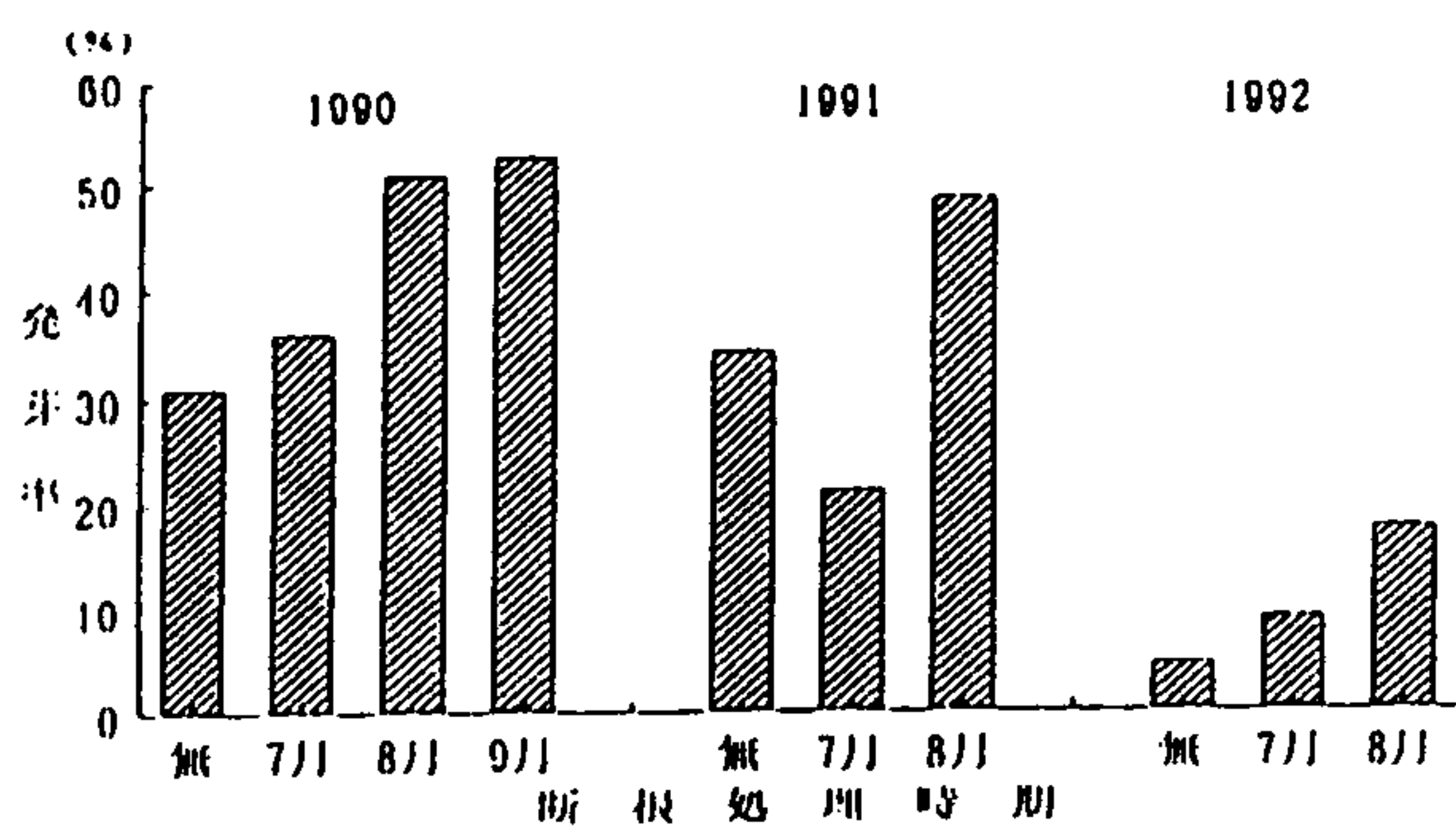


図1 断根処理時期と発芽率

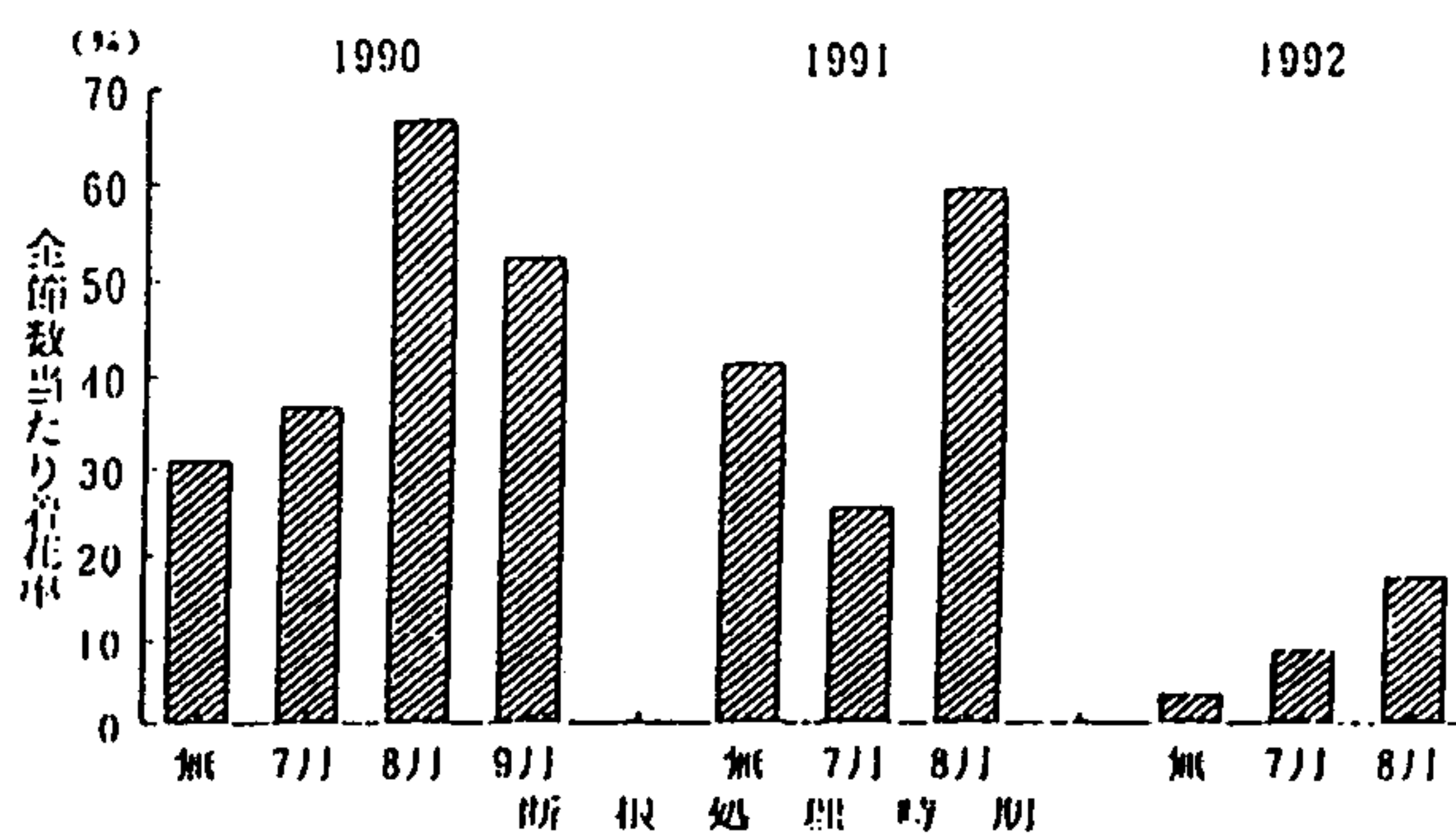


図2 断根処理時期と全節数当たり着花率

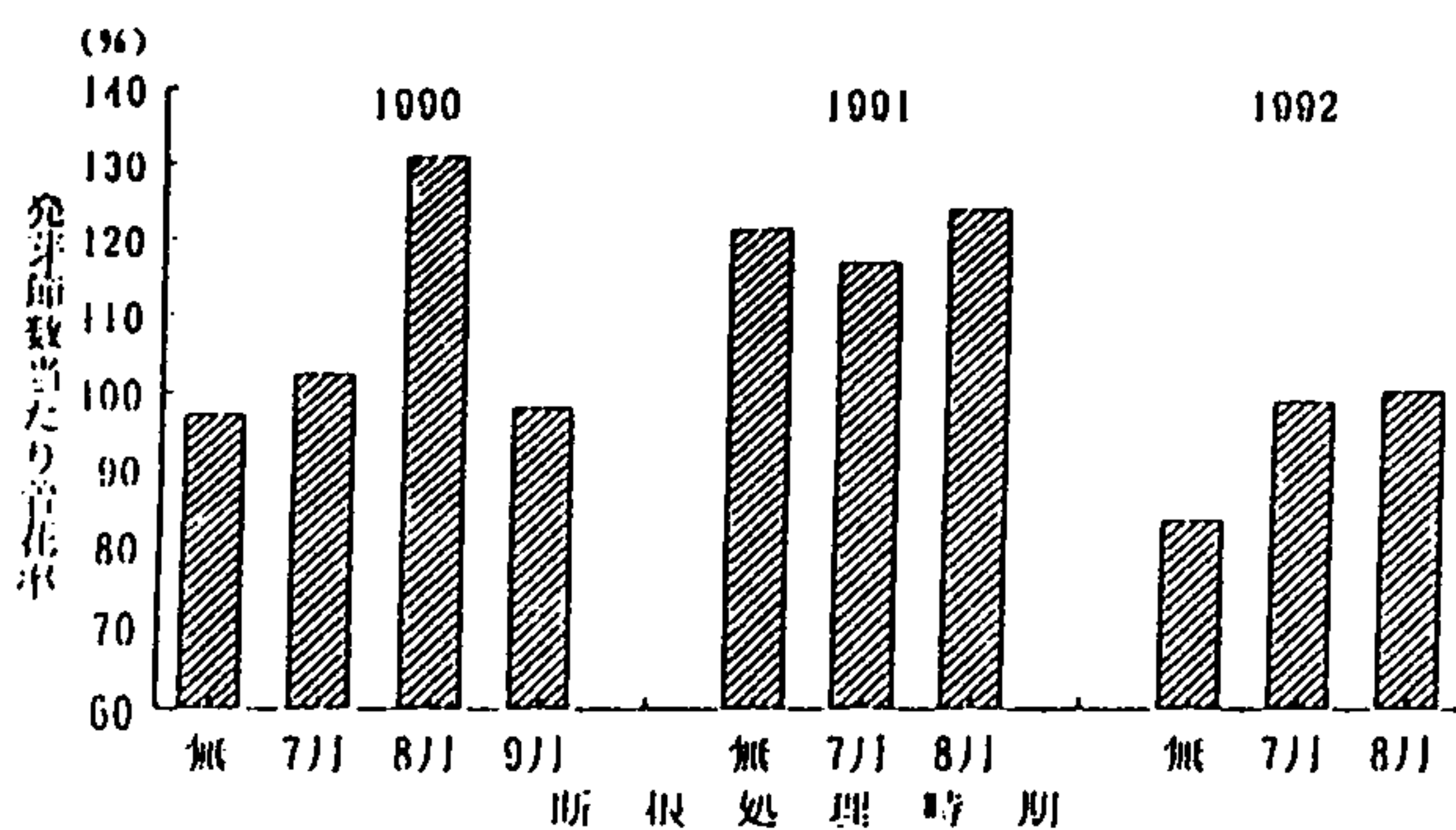


図3 断根処理時期と発芽節数当たり着花率

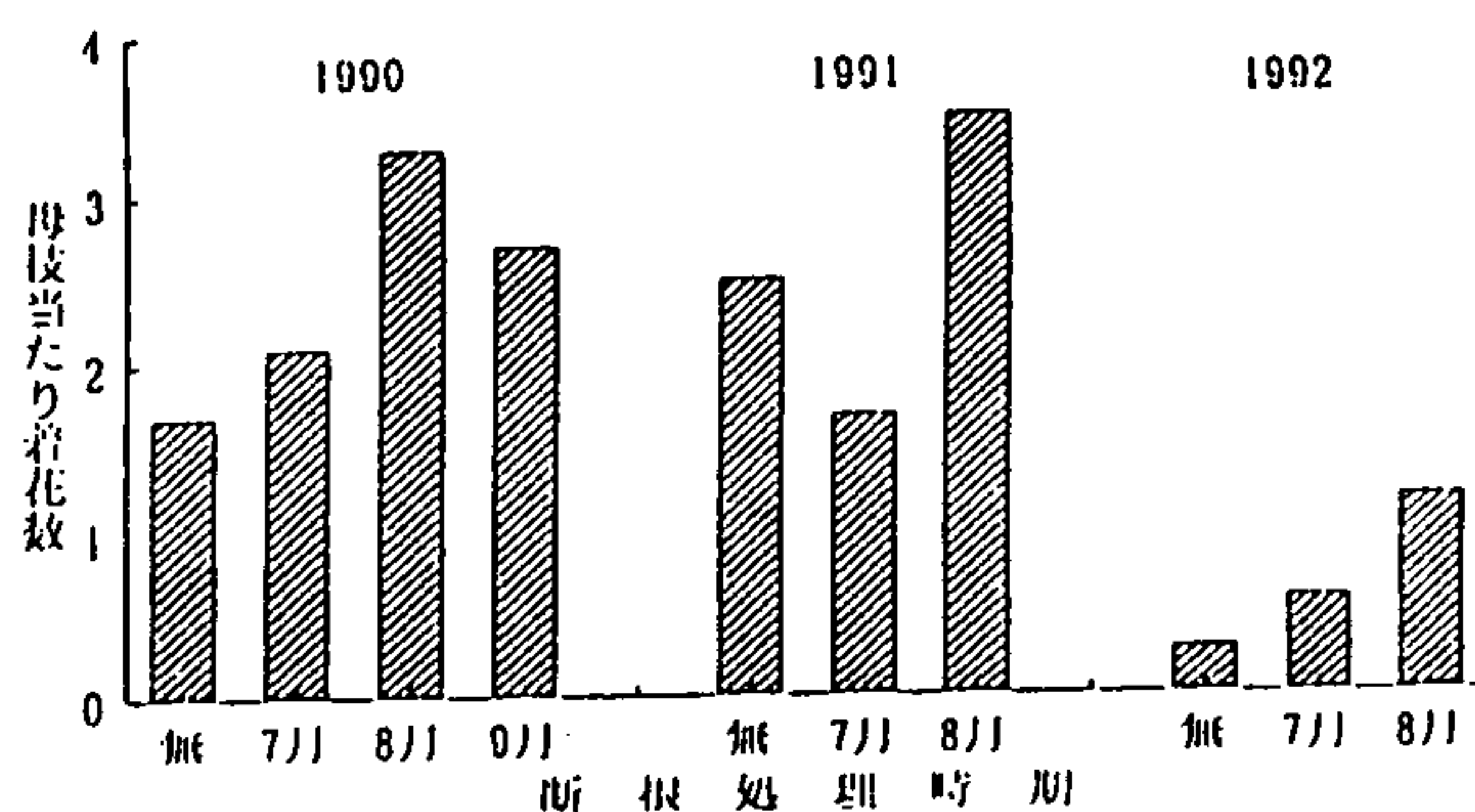


図4 断根処理時期と母枝当たり着花数

[その他]

研究課題名：カンキツ類の環境制御による高付加価値果実の生産と流通技術の開発

予算区分：助成試験（緊急技術開発）

研究期間：平成4年（平成4～5年）

研究担当者：松永茂治、岸野 功

既発表論文等：平成4年度長崎県果樹試験場業務報告

残された問題点：断根処理が着花、果実形質及び樹勢に及ぼす検討がさらに必要である。